

(4) 教育普及事業

1. 事業の基本的な考え方

展示解説、普及活動等を行う教育普及事業は、調査・収集・整理・保存・展示・研究などの諸活動とともに、文学館活動の中で重要な位置を占める。県民のニーズに対応し、社会教育・学校教育との連携を図るなかで、文学専門の博物館としての特殊性を生かし、年間を通しての文学講座の開催、講演会の開催、文学的に価値ある映画の上映、朗読公演会など、県民や来館者の生涯にわたる学習がより一層進展するように学習支援を行っていく。

また、山梨ゆかりの作家や作品の資料を活用した学習プログラムや子ども向け事業の充実を図ることは、郷土への関心を高め、郷土を愛し、郷土に誇りを持てるような心情を育むという点からも重要であると考え。子どもから大人までの幅広い県民の文学活動の中心となり、文化の発信拠点を目指す。

2. 教育普及活動の内容

(1) 特設展・企画展関連教育普及事業

開館30周年記念企画展「宮沢賢治展 ようこそイーハトーブの世界へ」、春の特設展「太宰治展生誕110年－作家をめぐる物語－」、夏の特設展「山と水の文学」に関連して、作家・研究者・関係者による講演会や関連講座を行う。特設展・企画展のテーマを詳しく解説し、展示では扱えなかった視点から考察を加えるとともに特設展・企画展そのものへの理解を深められるように実施した。外部講師及び職員による講演会・講座などを通して文学を学ぶ機会を提供した。

- ①外部講師及び職員による講演会・文学講座事業を実施。
- ②関連映画鑑賞会を実施。
- ③関連ワークショップを実施。
- ④ギャラリートーク（展示解説）を実施。
- ⑤チャレンジクイズを作成。

楽しみながら展示の内容が学べる小中学生対象のクイズを作成。「チャレンジクイズ」を通して、文学や作家について学ぶ機会を提供。

(2) 年間文学講座

年間文学講座は平成2年度から実施している。県民の興味・関心に応じて幅広く学べるよう配慮し、テーマ設定に当たっては講師の専門性を生かすことを心がける。令和元年度は、5名の講師によるリレー形式の講座である「古典文学講座（全8回）」と1名の講師による「近代文学講座（全8回）」の2講座と、当館の学芸員が講師を務める「山梨の文学講座（全3回）」を実施した。

講座1のテーマは「日本文学と富士山－古典を中心に」、講座2のテーマは「いま『文豪の』作品を読みなおす－伝記と代表作の関係」、講座3は、当館の展示作家を中心に、山梨出身・ゆかりの人物と文学についての講座を実施した。

(3) 名作映画鑑賞会

文学作品を映画化した名作の数々を上映し、文学と映画の関わりについて考え、作品をより深く理解してもらうための企画である。平成2年から毎年実施している。また、夏休みには子ども向け映画を上映している。令和元年度は一般向け映画5回、子ども向け映画を2回、全7回実施した。

(4) 朗読公演会

作品（詩・小説など）の魅力を朗読公演によって鑑賞する一般向けの企画を1回実施する。これは、開館の年から毎年開催、幅広い年齢の聴衆から大変好評を博している。令和元年度は、オペラシアターこんにゃく座による「タンゲ+うたのステージ」を12月に実施した。

(5) 文学創作教室

俳句をはじめ短歌や詩、エッセイなどの創作を通じて、文化活動を推進する。小・中・高校生をはじめ広く県民を対象に、文学創作講座を実施する。今年度は、俳人の石寒太氏と歌人の今野寿美氏の対談「宮沢賢治 短歌・俳句の世界」（一般および高校生対象）、三枝昂之館長と三枝浩樹氏による短歌教室（計2回）を開催した。

(6) 山梨の文学解説講座（出前講座）

この講座は、学芸課の職員が、要請された市町村等に関連のある県出身・ゆかりの文学者と作品を紹介する講座である。当館の研修室・講堂等あるいは市町村施設等において、説明・講義した。

(7) 教師のための学習会

県内の小・中・高校・特別支援学校の教職員を対象に夏の特設展と秋の企画展に関わって、文学館職員による説明と観覧を通して、国語教育への活用を図った。

(8) 児童生徒向け事業について

将来の山梨を担うことになる子どもたちに、山梨ゆかりの文学と文学者について学びきっかけを作る。学校教育との連携をより緊密にして、文学を通して豊かな心を育てていく。

① 文学教室

年間を通じ、随時開催する。小学校、中学校、高等学校の要請に応じ、当館が展示する内容について、当館の研修室・講堂等、あるいは各小中学校、高等学校において、説明・講義する。

② 子ども名作映画

当館講堂において、夏休み期間中に良質の映画の上映（2回）を行う。

③ 子どもワークショップ

主に子どもを対象とした参加型・体験型の教室を開催し、文学を身近に感じ、文学や文学者に興味を持ってもらう機会とする。今年度は、特設展関連事業として『富岳百景』スノードームをつくろう」、また、夏休みのワークショップとして、「山と水からいただく色 草木で和紙葉書を染めよう」「あなたの心を鏡開き！太神楽の世界を体験しよう」を開催した。1月には、「新春ワークショップ 小学生百人一首教室」を実施した。また、新しい試みとして、大人を対象とした「俳句を始めよう 大人のための初心者俳句ワークショップ」を開催した。

④ 学習ガイド（ジュニアガイドブックと教育普及用資料集）

県出身又はゆかりの文学者、作品について、小中高生の理解を深めるために、文学者、作品についての教育普及資料集を作成している。平成27年は宮沢賢治の、29年度は樋口一葉の教育普及資料を改訂するなど、随時見直しを行っている。

また、常設展示室に展示されている山梨県出身およびゆかりの文学者について、わかりやすく解説したジュニアガイドブックを活用し、子どもたちが文学への興味や関心を持てるようにしている。

⑤ チャレンジ文学館

常設展を見に来た子どもたちが、ポイントをつかんで楽しく観覧できるように、常設展クイズ「わたしはだあれ？」を実施し活用を図っている。また、芸術の森公園内に、俳句や詩、短歌や童謡、小説やエッセイの一節を書いた24本の柱を立て、「文学の柱追跡散歩」としてクイズを実施する。さらに、夏休みスタンプラリーの活用により、夏休み期間中は「夏休みチャレンジ文学館」として子どもたちへの浸透を図った。

⑥ チャレンジクイズ

楽しみながら企画展や特設展の内容が学べる小中学生対象のクイズを作成。「チャレンジクイズ」を通して、文学や作家について学ぶ機会を提供する。

⑦（ジュニア）インターンシップ（就業体験）

子どもたちの職業観・勤労観を、より早い段階から育成するとともに、将来、自らの進路を自分自身で選択できる能力を育てていくことが課題となっている。文学館としても、中・高校・大学生の職場見学や（ジュニア）インターンシップを積極的に受け入れ、若年者の職業意識形成支援に積極的に取り組む。令和元年度は高校生徒を受け入れた。

⑧ 学習資料・アウトリーチセットの貸与

館作成資料の一部を学習のために貸与する。要請により、学校をはじめ、生涯学習事業等に対して貸与を行う。令和元年度は、「石川啄木セット」を県内小中高校10校に、飯田蛇笏・龍太のちまちな人形セットを6校に、「村岡花子と『赤毛のアン』の世界セット」を8校に、「宮沢賢治～イートハーブの世界・嘉内（かない）との友情物語～セット」を15校に、「芥川龍之介の夏休みセット」を4校に、そして「文豪ストレイドッグス」を12校に貸し出した。

(9) やまなし文学賞について

平成4年4月、山梨県にゆかりの深い樋口一葉の生誕120年を記念して制定された。山梨県の文学振興をはかり、日本文化発展の一助として、小説、研究・評論の2部門が設けられている。令和元年度は小説部門309編、研究・評論部門115編の応募があった。

令和元年度 教育普及事業の実施状況

分類	内容 講師等	開催日	会場	参加人数	
文学講座 1	「日本文学と富士山ー古典を中心に」 都留文科大学教授5名によるリレー式講座	14:00~15:30 90分間	講堂		
	①「万葉集の山部赤人の富士の山を望(み)る歌」 講師:鈴木武晴	5/10(金)			86人
	②「万葉集の高橋虫麻呂の富士の山を詠む歌」 講師:鈴木武晴	6/7(金)			60人
	③「平安時代の文学作品にみる富士山」 講師:長瀬由美	7/12(金)			75人
	④「富士山を詠む和歌ー平安時代ー」 講師:佐藤明浩	8/9(金)			55人
	⑤「富士山を詠む和歌ー中世ー」 講師:佐藤明浩	9/13(金)			57人
	⑥近世文学に見る富士山 講師:加藤敦子	10/4(金)			63人
	⑦「富士山と江戸時代の旅」 講師:加藤敦子	11/1(金)			58人
	⑧「中国の霊山」 講師:寺門日出男	1/10(金)			53人
	参加者合計				
文学講座 2	「いま『文豪』の作品を読みなおすー伝記と代表作の関係」 講師:大木志門(山梨大学大学院准教授)	14:00~15:30 90分間	講堂		
	①「太宰治『道化の花』ー『前衛』時代の太宰」	5/30(木)			125人
	②「田山花袋『蒲団』ー『私』を描くまでの苦闘」	6/20(木)			117人
	③「志賀直哉『城の崎にて』ー透明な文体の成立」	7/18(木)			96人
	④「徳田秋聲『あらくれ』ー野生の女性の一代記」	8/15(木)			71人
	⑤「林芙美子『放浪記』ー女性と労働と詩」	9/19(木)			70人
	⑥「宮沢賢治『銀河鉄道の夜』ー児童文学か宗教文学か」	10/17(木)			103人
	⑦「芥川龍之介『歯車』ー遺作の中の幻想」	11/21(木)			87人
	⑧「谷崎潤一郎『春琴抄』ーフィクションと事実の間」	12/19(木)			92人
参加者合計			761人		
文学講座 3	「山梨の文学」 太宰治ー甲府での足跡をたどって 講師:保坂雅子(学芸課長)	14:00~ 70分間 6/2(日)	研修室		
	山の描写いろいろ 講師:高室有子(学芸幹)	7/28(日)			76人
	資料が語る宮沢賢治ー展示のみどころ 講師:中野和子(学芸員)	9/28(土)			87人
	参加者合計				251人
企画展関連事業 「宮沢賢治展ようこそイーハトーブの世界へ」	講演会「カムパネルラのスケッチ帖」 講師:長野まゆみ(作家)	9/21(土)	講堂	246人	
	講演会「宮沢賢治への問い」 講師:赤坂憲雄(民俗学者・学習院大学教授)	10/5(土)	研修室	151人	
	講演と演奏「賢治作品の奏でる音楽」 講師:宮澤和樹(株式会社林風舎 代表取締役) 宮澤やよい 宮澤香帆	11/3(日)	講堂	398人	
	対談「宮沢賢治 短歌・俳句の世界」 講師:石寒太(俳人) 今野寿美(歌人)	11/16(土)	講堂	231人	
	講演会「宮沢賢治の文学的表現行為ー(本統に一切を肯定する)ためにー」 講師:栗原敦(実践女子大学名誉教授)	11/23(土)	美術館 講堂	131人	
	参加者合計			1157人	
特設展関連事業 「太宰治 生誕110年ー作家をめぐる物語ー」	対談 「太宰治・著書と資料をめぐる」 講師:安藤宏(東京大学教授) 川島幸希(秀明大学学長)	6/15(土)	講堂	223人	
参加者合計			223人		

文学創作教室	対談「宮沢賢治 短歌・俳句の世界」 講師：石寒太(俳人) 今野寿美(歌人)	11/16(土)	講堂	231人
	「初心者短歌教室」全2回 講師：三枝浩樹	5/18(土) 6/1(土)	研修室 研修室	20人 21人
	「三枝昂之短歌講座」全1回 講師：三枝館長	9/7(土)	研修室	34人
	「三枝浩樹短歌講座」全1回 講師：三枝浩樹	12/21(土)	研修室	33人
	参加者合計			339人
名作映画鑑賞会	真白き富士の嶺(特設展関連)	5/26(日)	講堂	250人
	狂った果実	6/22(土)	講堂	199人
	アニメ「フランダーズの犬」	7/20(土)	講堂	103人
	アニメ「トムソーヤの冒険」	8/11(日)	講堂	85人
	風の又三郎(企画展関連)	9/23(月)	講堂	237人
	蒲田行進曲	10/14(月)	講堂	200人
砂の器	11/9(日)	講堂	280人	
参加者合計			1354人	
ワークショップ	大人のための初心者俳句ワークショップ	4/27(土)	研修室	25人
	「富岳百景」スノードームをつくろう	5/11(土)	研修室	20人
	夏休み自由研究プロジェクト	7/15(月)	アイメッセ	150人
	山と水からいただく色 草木で和紙葉書を染めよう	7/27(土)	茶室 素心庵	19人
	あなたの心を鏡開き！太神楽の世界を体験しよう	7/30(火)	美術館講堂	28人
	新春小学生百人一首教室	1/11(土)	研修室	48人
参加者合計			290人	
チャレンジクイズ	チャレンジ文学館「わたしはだあれ？」			815人
	文学の柱			357人
	企画展チャレンジクイズ			318人
	特設展チャレンジクイズ			495人
参加者合計			1985人	
協力会読書会	藤原正彦「ヒコベエ」	5/19(日)		7人
	太宰治「人間失格」	6/9(日)		8人
	芥川龍之介「河童・或阿呆の一生」	7/7(日)		9人
	三島由紀夫「花ざかりの森・憂国」	8/11(日)		7人
	足立絵莉「ログアウト」	9/8(日)		6人
	宮本輝「錦繡」	10/13(日)		6人
	ツルゲーネフ「はつ恋」	11/10(日)		8人
	林真理子「葡萄が目にしみる」	12/8(日)		7人
	ヘルマン・ヘッセ「車輪の下」	1/12(日)		8人
	山本周五郎「おごそかな渴き」	2/9(日)		7人
	芥川賞受賞作2作(第161回&162回)	3/8(日)		中止
	参加者合計			73人
ジュニアインターシップ (就業体験受け入れ) 学芸員実習	県立農林高等学校			1人
	都留文科大学			1人
	東京女子大学			3人
参加者合計			5人	
山梨の文学解説講座 (講師派遣) (一般・学校)	小学校 2回			
	中学校 4回			
	高等学校 5回			小中高特 682人
	一般 13回			一般 542人
参加者合計			全21回 1224人	
文学教室	展示解説			小中高特 1257人
	小学校 2校			一般 344人
	中学校 21校			
	高等学校 10校			
	一般 5回			
参加者合計			全38回 1601人	
その他	移動文学館パネル展示			55校 19336人
	開館30周年記念 短歌・俳句創作と合同合評会	5/22(水)		45人
	開館30周年記念 林真理子講演会「小説の力を信じて」	11/10(日)		427人
	開館30周年記念「そのこぼのつぎへ」募集(一般299 小中生2762)	4/27(土)~8/31(土)		3061点
	朗読公演会「タンゲーまほうをかけられた舌ー」	12/14(土)		308人
	やまなし文学賞(小説309 研究・評論115)			424人
	やまなし文学賞表彰式	3/15(日)中止		—
	外部共催研修	1回		28人
	教師のための学習会	2回		24人
	各種団体への広報活動	13回		530人
	参加者合計			24183人

(5) 刊行物の記録

① 山梨県立文学館館報 (A4版8頁) 寄稿文及び資料翻刻一覧

108号 2019(令和元)年6月10日発行

【寄稿】 文晁の不覚 三宅修(山岳写真家)

【資料翻刻】 八木義徳 結城信一宛書簡

109号 2019(令和元)年9月10日発行

【寄稿】 賢治、いずこに 山折哲雄(宗教学者・評論家)

【資料翻刻】 津田青楓 赤木格堂宛書簡

110号 2020(令和2)年3月10日発行

【寄稿】 俳句の後山 諸若葉潜りて後山高からず 高橋睦郎(詩人)

② 開館30周年記念企画展「宮沢賢治展 ようこそイーハトーブの世界へ」図録 A4版80頁 寄稿

賢治、いずこに

宮沢賢治の文学的表現行為 ―〈本統に一切を肯定する〉ために―

宮沢賢治の短歌 ―物語胚胎―

賢治の俳句を、あなたは知っていますか？

「あぶない所だつた」～高知尾智耀助言の意味～

賢治さんからの通信

談話

山折 哲雄

栗原 敦

今野 寿美

石 寒太

望月 善次

長野まゆみ

松本 零士

③ 資料と研究 第25輯 令和2年3月27日発行 A5版156頁

令和元年度企画展・特設展をめぐって

開館30周年記念企画展「宮沢賢治展 ようこそイーハトーブの世界へ」

我らのペムネルとネリはいったいどこまで行けるだろうか

講演会 宮沢賢治への問い

宮沢賢治の短歌を読む

栗原 敦

赤坂 憲雄

三枝 昂之

開館30周年記念特設展「太宰治 生誕110年―作家をめぐる物語―」

対談 太宰治・著書と資料をめぐって

安藤宏・川島幸希

飯田蛇笏 高室呉龍宛書簡 翻刻 一九三二(昭和七)年

井伏鱒二 野上照代宛書簡 翻刻 一九七二年～一九八四年

佐佐木茂索日記「且楽軒記」参 翻刻

中村星湖作成スクラップブック⑤その八

編集後記

高室 有子

中野 和子

保坂 雅子

外川豊子・小林幸代・中島桂子

④ 開館30周年記念冊子「30年の記録」 令和元年9月20日発行 A5版16頁

⑤ 開館30周年記念冊子「そのことばのつづきへ」作品集 令和元年11月10日発行 A4版77頁

(6) 閲覧室の運営

① 閲覧室の設置

山梨県立文学館設置及び管理条例と施行規則に基づき、県民・文学館来館者への資料・情報の提供及び調査・研究に対する助言を主な事業として、閲覧室の運営を行っている。

② 閲覧室の利用

ア 利用時間

平日 午前9時～午後7時

土・日・祝日 午前9時～午後6時

※休館日は閉室

イ 利用手続

書庫内の資料を利用する場合は、「閲覧カード発行申込書」に必要事項を記入し、「閲覧カード」の交付を受ける。閲覧を希望する資料名を「文学資料等閲覧承認申請書」に記入し、受付に申し込む。

ウ 利用対象

文学資料などの調査・研究、読書を目的とした利用とする。

③ 閲覧室の業務

ア 所蔵資料の閲覧・情報提供

閲覧室では文学作品・文学研究書を中心とした図書、逐次刊行物、県内外文芸誌、新聞などを収集し、利用に供している（一部禁閲覧資料あり）。

また、画像情報システムにより、特殊資料の芥川龍之介資料、樋口一葉の「たけくらべ」再掲本原稿（複製）、中村星湖「少年行」原稿、山崎方代草稿など、実物の閲覧が困難な資料を、画像で閲覧に供している。

イ 文献検索システムによる書誌情報の提供

所蔵資料（図書、逐次刊行物、特殊資料、マイクロ資料、視聴資料）の書誌情報は、文献検索システムにより、閲覧室内のコンピュータ端末及び当館ホームページから検索できるようになっている。

図書データは通常の書誌情報に加え、内容細目もデータ化し、全集・シリーズに収録されている個々の作品名、作者名からの検索も可能である。

逐次刊行物については、一部のものは所載論文名、作品名、執筆者名からの検索もできる。

ウ 調査・相談業務（レファレンス）

閲覧室に寄せられた調査・相談・照会などの依頼に対しては、文献に基づき、司書、学芸員などが対応している。質問は、電話、文書、FAX、電子メールでも受け付けている。

エ 複写サービス

著作権法に基づき、一部の禁複写資料を除き、所蔵資料の複写サービスを行っている。（有料）

オ 朗読テープ・CDの利用

朗読テープ・CDは文学関係のものを中心に所蔵し、コーナーを設けて利用に供している。

カ 個人研究室・共同研究室の利用

閲覧室内には個人研究室2室、共同研究室2室が併設されており、個人及びグループでの研究・研修などの利用に供している。（有料）

キ ビデオブースの利用

文学館の紹介及び文学資料の情報を多角的に提供するため、閲覧室にビデオブースを併設し、文学関連の映像資料を提供している。

ク 資料紹介

所蔵する資料は、ほとんどが閉架であり、直接来館者の目にふれることは少ない。そこで収蔵されている図書・雑誌の紹介を目的として、テーマを決めて閲覧室内で「資料紹介」を行っている。

ケ 書庫見学

職員が書庫内を案内し、収蔵資料、保管状況などを解説している（年2回開催）。

(7) 開館30周年記念事業の記録

2019年度（平成31年・令和元年）は、開館30周年を契機として、文学を通じ山梨の文化を県内外へ発信していくとともに、文学館のさらなるイメージアップをはかりアピールしていくため、一年間通じての記念事業を展開した。5月の本因坊戦から年度末にかけて、公園内に30周年のバナーを設置し、周知PRをはかった。

○ 県立美術館40周年記念・県立文学館30周年記念 スペシャル館長トーク

- 概要 2018（平成30）年度に開館40周年を迎えた県立美術館と、2019年度に30周年を迎える文学館の記念事業として、両館館長が文学と美術の交わり、美術館と文学館の連携、芸術の森公園の未来像を語り合った。
- 日時 2019（平成31）年3月2日（土）14：00～15：30
- 会場 県立美術館 講堂
- 講師 青柳正規（山梨県立美術館館長）、三枝昂之（文学館館長）
- 参加者 90名

○ 「そのことばのつづきへ」発表

- 概要 文学館の新たな魅力の発信として、キャッチコピー「そのことばのつづきへ」を報道関係者へ発表し、あわせて年間の記念事業の概要を説明した。
- 同日、文学館外壁に懸垂幕を設置し、館のイラストをあしらったオリジナルブックカバー（2万枚）の配布を開始した。県内の書籍組合を通じて各書店での利用を依頼したほか、県内各図書館、博物館施設、館内のミュージアムショップで利用者へ配布した。
- 日時 2019（平成31）年4月27日（土）10：30～11：00
- 会場 文学館研修室

○ 「そのことばのつづきへ」募集事業

- 概要 キャッチコピー発表とあわせて、言葉の募集事業を行った。短歌の上の句「あのとこの出会いがあつて今がある」（5・7・5）に続く下の句（7・7）を募集、全作品を掲載した冊子を11月10日に発行し応募者に配布すると共に、ホームページに掲載し、文学館2階ロビーにパネル掲示を行った。（12月24日まで）
- 募集期間 2019（平成31）年4月27日（土）～8月31日（土）
- 応募総数 3,061点（一般302点、小中高校2,759点）



芸術の森公園内のバナー掲示



「そのことばのつづきへ」応募作品の
パネル展示（2Fロビー）

○ 囲碁の本因坊戦開催

概要 広く日本文化に親しむ催しとして、囲碁の第74期本因坊戦第2局を開催した。主催は毎日新聞社、日本棋院、関西棋院。共催として「山梨県立文学館30周年記念本因坊戦開催実行委員会」（文学館・日本棋院山梨県本部・こうふ開府五〇〇年記念事業実行委員会・甲斐市・SPSやまなし）を組織した。対局を行った2019（令和元）年5月22日、23日を中心に、以下の事業を開催した。

- ① 前夜祭 2019（令和元）年5月21日（火）18：00～20：00 会場 常磐ホテル 参加者140名
- ② 対局 2019（令和元）年5月22日（水）9：00～17：00、5月23日（木）9：00～18：30
会場 文学館 素心菴
対局者：本因坊文裕（井山裕太九段）、挑戦者 河野臨九段
関係者が初手観戦（22日）、封じ手開封立ち会い（23日）をした。
- ③ プロ棋士による指導碁
2019（令和元）年5月22日（水）13：00～15：00 会場 文学館研修室 参加者26名
プロ棋士を招き、県内の囲碁愛好者へ指導碁を開催。
- ④ 短歌・俳句創作と合同合評会
2019（令和元）年5月22日（水）13：30～15：30 会場 県立美術館講堂 観覧者45名
県内の歌人7名、俳人8名が初手観戦後、芸術の森公園を題材に短歌・俳句を詠み、批評しあう合評会を公開で行った。
【歌人】市ノ瀬進・長田晶子・川崎勝信・三枝浩樹・土谷映里・古川順子・古屋正作
【俳人】井上康明・岡田つき子・乙黒幸江・塩沢孝・清水幸・瀧澤和治・ばばけんいち・兵藤輝
【司会】三枝昂之館長
- ⑤ 棋士と館長のトーク
2019（令和元）年5月23日（木）13：00～13：30
会場 文学館講堂 参加者100名
甲府市出身の内田修平七段と三枝館長が、囲碁と日本の文化について語り合った。
- ⑥ 大盤解説会
2019（令和元）年5月23日（木）13：30～18：30
会場 文学館講堂 参加者350名
対局の様子をスクリーンに映し、プロ棋士が解説。次の一手クイズなどを実施。
解説 内田修平七段、聞き手 甲田明子四段
- ⑦ 常設展「囲碁と文学」コーナー
会期 2019（令和元）年4月23日（火）～6月2日（日）
常設展示室第1室に設置。囲碁と文学の接点を紹介した。
- ⑧ 閲覧室資料紹介「囲碁と作家」コーナー
会期 2019（令和元）年5月15日（水）～6月5日（水）
川端康成、坂口安吾など、囲碁を愛した作家の著作を紹介。
- ⑨ 県立美術館春季テーマ展示「囲碁を描く」
会期 2019（令和元）年4月23日（火）～6月2日（日）
三枝雲岱「囲碁図屏風」、川崎小虎「囲碁」2点を展示。



本因坊戦対局（茶室素心菴）



短歌・俳句創作と合同合評会（県立美術館講堂）

○ 開館30周年記念式典

概要 関係者・来賓を招き、研修室において記念式典を開催。文学館協議会会長を長く務めた数野強氏、開館以来30年間、奉仕活動に尽力した9名の協力員の方々へ、館長から感謝状を贈呈。また、30年の歩みをスクリーン画像で振り返り、この画像をまとめた記念冊子「30年の記録」を出席者へ配付した。式典終了後引き続き、企画展「宮沢賢治展」のオープニングセレモニーを行った。

日時 2019（令和元）年9月20日（金）13：00～13：30

（終了後、「宮沢賢治展」オープニングセレモニーを開催）

会場 文学館研修室 出席者 100名

○ 開館30周年記念文学講演会

林真理子「小説の力を信じて」

日時 2019（令和元）年11月10日（日）13：30～15：00

会場 文学館講堂 参加者 427名

○ 年間通じての記念展示の展開

①常設展 第1室に「近代文学の名作」コーナーを設け、春夏秋冬4期にわたり館が所蔵する近代文学の名作の原稿・草稿を展示した。（詳細は常設展の記録を参照）

②閲覧室資料紹介

閲覧室における館蔵の図書・雑誌をテーマごとに4期に分けて展示。

③以下の展覧会を「開館30周年記念事業」として2019（平成31・令和元）年、年間通じて開催

- ・2018（平成30）年度の新収藏品展「手書のリズム」1月26日（土）～3月24日（日）
- ・春の特設展「太宰治 生誕110年—作家をめぐる物語—」4月27日（土）～6月23日（日）
- ・夏の特設展「山と水の文学」7月13日（土）～8月25日（日）
- ・企画展「宮沢賢治展 ようこそイーハトーブの世界へ」9月21日（土）～11月24日（日）

